

慶應義塾大学 シラバス・時間割

体育実技A (バレーボール) 45

担当者名	村山 光義
単位	1
年度・学期	2025 春
曜日時限	水2
キャンパス	日吉
教室	バレーコート
授業実施形態	対面授業 (主として対面授業)
登録番号	27430
設置学部・研究科	体育研究所
学年	1, 2, 3, 4
評語タイプ	S, A, B, C, D
科目概要	チームスポーツであるバレーボールの実践を通して、個々の技術レベルに応じた役割分担をし、相互のコミュニケーションを図りながらクラス全員が良き仲間となることを目指します。また、バレーボールのプレー上達を目指して毎回練習すると共に、バレーボールのゲームの楽しさを追求します。
K-Number	IPE-CO-00119-411-59

[▼ 詳細](#)

授業科目の内容・目的・方法・到達目標

先ず本授業では、履修者の密集を回避するための授業運営を実施しますのでご理解ご協力お願い致します。

本授業は原則としてオンキャンパス（対面）で実施します。

対面形式授業に参加できない学生への対応はできません。

バレーボールの実践は、コート内のメンバーによるグループワークによって攻撃と守備を成り立たせることです。このグループワークの実践には多くの学びの機会があり、実社会における実践的コミュニケーション能力の育成につながります。本授業はこうしたコミュニケーション・トレーニングの実践を目的とします。

能動的学修形式 [説明](#)

実験、実技、実習

グループワーク

PBL (問題解決学習)

準備学修 (予習・復習等)

バレーボールの技能と戦術およびルールの理解、スポーツとコミュニケーションの関係理解などに関する予習・復習。参考資料の参照および映像資料の視聴 (e-learning) による (30分程度×5～10コンテンツ)。レポートや課題提出のための学修活動 (2～3時間)。

授業の計画

第1回

第2回

基礎技術練習：パスとレシーブの技術練習①、ゲーム

第3回

基礎技術練習：パスとレシーブの技術練習②、ゲーム

第4回

基礎技術練習：スパイクの技術練習①、ゲーム

第5回

基礎技術練習：スパイクの技術練習②、ゲーム

第6回

基礎技術練習：サーブの技術練習、ゲーム

第7回

応用技術練習：レシーブから攻撃のパターン練習①、ゲーム

第8回

応用技術練習：レシーブから攻撃のパターン練習②、ゲーム

第9回

固定チームによるリーグ戦①

第10回

固定チームによるリーグ戦②

第11回

基礎技術練習：技術のレベルアップ、ゲーム

第12回

応用技術練習：技術のレベルアップ、ゲーム

第13回

固定チームによるリーグ戦③

第14回

まとめ

その他

レポート課題提出のための学習およびスポーツとコミュニケーションの関係理解のための学習

成績評価方法

授業回数の3分の2以上出席した者を対象に、平常点（取り組みの積極性、クラス内コミュニケーションなどの相互協力・対話に関する態度の観点[40%]、バレーボール・スポーツ活動の実践とコミュニケーションの関係に関する理解の観点[30%]）、技能点（個人技能の向上度やチーム内の相互連携能力[30%]）をもって評価を行う。

態度の観点、技能点については教員の観察により点数化する。理解の観点はレポートによる評価を行う。

実施場所

第3校舎下バレーボールコート

服装携帯品等

運動の出来る服装、運動靴（必須）

雨天時の対応

教室での座学に切り替える。スポーツ文化の意義と歴史に関する講義、バレーボール技術に関する講義。

担当教員から履修者へのコメント

バレーボールを通じた社会性（仲間との交流・チームのための種々のサポート精神）を学んでほしいと思います。本授業を履修する場合は大学保健管理センターが実施する定期健康診断を受診することが必須となります。未受診の場合は授業に参加できず成績評価されません。

【今後の新型コロナウイルス感染症の動向等によっては、大学の対応に準じて授業形態および成績評価方法を変更する可能性があります。尚、変更を行う場合にはCanvasにてお知らせします。】

質問・相談

授業終了時に随時受け付けます。

連絡先：murayama@keio.jp